



YCDCの職員と松岡さんは何でも相談し合える仲。チームワークを現場での取り組みに生かす



ヤンゴン市内の地図を見ながら、各地域への配水状況を確認する



鉄製のバルブの頭はさびてしまっていた

YCDCの職員と松岡さんは何でも相談し合える仲。チームワークを現場での取り組みに生かす

その技術を水問題に直面する途上国に環元すべく、福岡市は25年以上にわたり、職員を東南アジア

「ここから水が漏れてるぞ」「土を掘って確認してみようか」ヤンゴン市内の住宅地。土に覆われた道路を掘り起こすと、細長

「とりあえず応急処置で対応しよう。ただ給水管が劣化している

ので、近いうちに取り換えが必要だ。そう指摘するのは、福岡水道局の松岡賢さん。2012年4月からYCDCに派遣され、市内の水道システムの改善に汗を流している。「大学で都市環境工学を学び、地元のごみ処理技術が開発途上国で活用されていることを知りました。自分の専門分野で、生まれ育った福岡と途上国の役に立てたらと、市の職員になりました。」

「約4%とも言われる漏水率。『福岡市では計画的に漏水調査を行い、地上からは分からない漏水も見つけて修理されていますが、ヤンゴンでは実施されていません。故障しているメーターや盗水も多い』と松岡さんは話す。松岡さんはYCDCの同僚たちと共に、とにかく現場に足を運ぶ。市内の給水状況をくまなく確認し、無取水量を減らす対策を練るためだ。

手取り足取り 体を使って指導

ヤンゴンで一番問題となっているのが、約40%とも言われる漏水率。「福岡市では計画的に漏水調査を行い、地上からは分からない漏水も見つけて修理されていますが、ヤンゴンでは実施されていません。故障しているメーターや盗水も多い」と松岡さんは話す。松岡さんはYCDCの同僚たちと共に、とにかく現場に足を運ぶ。市内の給水状況をくまなく確認し、無取水量を減らす対策を練るためだ。

「新しい機材を使って漏水調査を行い、市民に届く水の量を増やしていきたい」と同僚のゾーミンさんは意気込む。つい先日、日本から漏水調査に使用する機材が届いたばかりだ。そしてやはり、何事も「百聞は一見にしかず。北九州市水道局が長年支援してきたカンボジ

市民により良い水道サービスを提供したい。その気持ちはミャンマーも日本も同じ。「私が仲間役となることで、技術指導だけでなく、彼らが研修などで得た学びやアイデアを最大限に引き出せば」と松岡さん。ヤンゴンの人々の生活を支える水。両国の技術者たちが思いを一つに。潤いあるまちづくりが進められている。

拡大する都市 足りない水

「ここから水が漏れてるぞ」「土を掘って確認してみようか」ヤンゴン市内の住宅地。土に覆われた道路を掘り起こすと、細長

いパイプが顔を出した。どうやら、接続部分から水が漏れているようだ。その状況を細かく、ヤンゴン市給水衛生局(YCDC)の職員がメモしていく。

「とりあえず応急処置で対応しよう。ただ給水管が劣化している



蛇口から出る水はあらゆる人の苦勞の結晶



送水管の状況を確認。70年以上経過しているもの、今も現役で活躍中

生命の水の道をつくる

500万を超える人口を抱える大都市ヤンゴンでは、急速に進む開発にインフラの整備が追いついていない。そこで活躍しているのが、日常生活に直結する「水」を人々に届ける日本の技術だ。



配水管から分岐した給水管の状況を確認する

